

※ 本コラムは、共同通信社より配信されたものです。

グローバル企業による海外での人材育成

地域社会への貢献を企業戦略として生かし、共存共栄を図りながら、成長を目指している会社は少なくありません。

プラント生産設備などと密接に関係する制御・監視システムや計測機器を製造する横河電機は、グローバルな視点に立った人材育成の協力策を実行しています。海外で大学と提携し講師を派遣したり、インターンシップの学生を受け入れたりしています。

日本企業の進出を受け入れている新興国や発展途上国は、地元の人材育成への協力を強く望んでいます。教育や職業訓練などの仕組みが整っておらず、進出企業が活用できる人材が育っていない国もあります。横河電機のような協力策は、技能を持った人材を育て、現地の雇用を増やし技術力を高めることに貢献することにつながります。

経済のグローバル化が進展し、先進国の企業は多くの国に工場や拠点を置いています。途上国などは環境、人権、貧困などさまざまな問題を抱えています。企業には進出先でも社会的責任(CSR)を果たすことが求められています。

自分の会社の利益だけを目的にしては、海外の地域社会と共存できません。地域との関係を軽視すれば反発を招き、現地での事業を成長させ続けることが難しくなります。

横河電機は教育や研修などで育てた人材を、現地で採用するように工夫しています。地域や社会への貢献と事業戦略を調和させることは、グローバル企業が成長を続けるための欠かせない条件になってきました。(株式会社グッドバンカー)